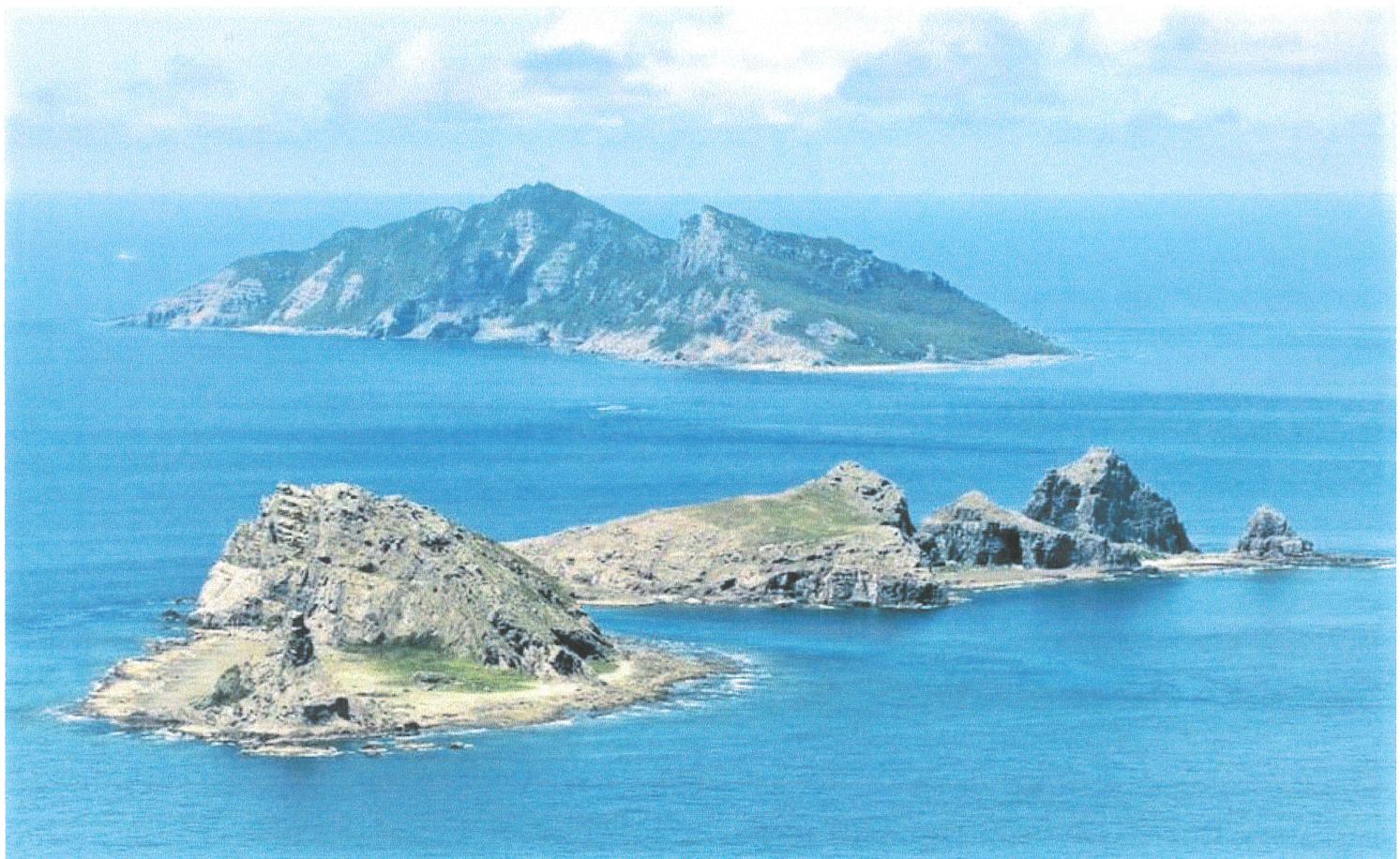


薩摩志士の会設立10周年
尖閣諸島魚釣島上陸7周年

記念パーティー

志誠勇魂



令和元年9月28日【土】 パレスイン鹿児島

御礼の挨拶

折しも令和元年の今年「薩摩志士の会設立10周年」「尖閣諸島魚釣島上陸7周年」を迎えるにあたり
平素よりの皆様方のご支援ご協力に対し感謝申し上げ衷心より
御礼申し上げます。今尚混迷を続ける社会と政治近代日本黎明の地
「鹿児島」より国家の未来を展望すると共に
心豊かな人材育成を目指し地域政党「薩摩志士の会」を
設立しました。本会は政府の機関や政党の下部組織ではなく
純粋な民間の草の根運動団体です。政治改革が叫ばれて久しい
昨今制度疲労を伴う構造改革だけではなく政治家本人のモラル
破壊にも注視しなければなりません。我々は注意深く権力を監視し
「納税者のための政治」を行わせる必要があります。
そこに長いものに巻かれない草の根運動組織の存在意義があり
継続的な連携が変革をもたらします。
ご当地鹿児島には脈々と受け継がれる「郷中教育」という
素晴らしい教えがあり当会でも先人の教え、情熱に学ぶべく
「郷中志誠塾」を新設し塾生と共に研鑽を重ねております。
これからも「行動は言論より雄弁なり」を胸に皆様と共に
「何をしても何も変わらない」諦めから「何かやれば何かが変わる」
強い信念を持って「公を尊び故郷を思い人の幸せを志す行動」で
明るく力強い未来を次世代に継承していく所存ですので
今後共ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

敬具

薩摩志士の会 代表 福沢峰洋

母なる聖地 尖閣に想う

尖閣上陸は本物の勇気か？ 腐った嘘榮心か？ 魂との闘い！

理論は行動をともわなければならない 王 陽明

※目的

- ・戦時犠牲者の慰靈（終戦直前疎開船2隻が尖閣海域で米軍に撃沈される）
- ・日本固有の領土 主権の主張（歴史的にも国際法上も明白）
- ・日本人 とりわけ若者への警鐘（左派の言論人や教育者により歪められた戦後の歴史教育の被害者へ）

※不朽心 〈上陸決意後〉

- ・死して不朽の見込みあればいつでも死ぬべし。生きて大業の見込みあらばいつでも生くべし
- ・身はたとひ 尖閣野辺に朽ちぬとも 留め置かまし大和魂
- ・帰らじと思い定めし旅ならばひとしほめる桜島かな

吉田松陰「留魂録」より

〈警察、海保から警告を受け〉

- ・かくすればかくなるものと知りながら己むに己まれぬ大和魂
- 〈死を覚悟した時〉

・人は時に権力者の顔色よりも 法律よりも そして自分の命よりもっと大事にしなければならないものがある。
それは國家の尊厳を身をもって守ることである

自分の死をすべて終わりではなくすべての始まりにする。

志士の本懽とは「身を殺して仁を成すことにあり」

吉田松陰「留魂録」より

9月15日(土) 西郷隆盛墓参り 知覧特攻平和記念館参拝

9月16日(日) 両親へ感謝文送付 (愚息を詫びる)

マスコミ情報で「9月18日中国武装漁船1,000隻が魚釣島へ向かう」ことを知る

9月17日(月) 大型台風の余波で条件付き運行も幸運に恵まれ離陸

- | | |
|-------|--------------------------------|
| 10:00 | 鹿児島空港→那覇空港 (11:20着) |
| 12:40 | 那覇空港→石垣島 (13:40着) |
| 14:30 | ホテルチェックイン |
| 16:45 | 石垣海上保安部(注意事項・警告)海図で説明 波の高さ2.5m |
| 19:00 | ホテルにて同行者2名合流 打合せ 後 居酒屋にて会食 |
| 22:00 | ホテルロビーにて八重山警察署員より注意 |
| 23:30 | コンビニ(食料調達)経由 石垣港へ |

9月 18 日 (火)

- 0:00 石垣島にて出航前検査（臨検）海保係員 5名 警察 2名
出航断念要請（台風余波による高波・違反上陸の可能性・日中関係の現状
中国武装船との不測の事態発生）を受けるも「船上での慰霊のみで上陸は絶対にしない」
という条件付きで出航許可を受ける。1km後方から大型巡視船 1隻が、警戒監視の為追尾
船長より警告 （船内にて）
上陸すると今後の業務に影響が出るので絶対にしてはならない。この荒波での
上陸決行は自殺行為だ。尖閣海域は豊富な漁場であるためサメが多く「過去に
も相当数もの不明者が出ていているのは殆どがサメの餌食になっているのが原因」
との指摘を受ける。
- 9:15 魚釣島到着後 菊の花（国花）を捧げ海上慰霊
その後私と同行者 1名が船から飛び込み、約 100m を 10 分～15 分かけて
上陸に成功（中国監視船 12 隻が接続水域に展開威嚇 内 3 隻が領海侵犯）
荒波と離岸流の為なかなか着岸出来ずに波にのまれ死を覚悟する
上陸後、海上では巡視船 2 隻、上空ではメディアヘリ 1 機、哨戒機 1 機が展開
携帯品について
私は国旗 3 枚と菊 50 本の入った発砲スチロール箱、同行者は慰霊碑前と
国旗掲揚台前を清掃するホウキ 1 本
- 9:45 上陸後すぐに哨戒機より「直ちに戻るように」との警告を受けるも肅々と慰霊
碑前の清掃
国旗掲揚、慰霊を続行。最中に未だ成仏されていない多くの方々の御靈を視認。
1 日も早い現地での慰霊祭の実行を痛感すると共に母なる聖地は断固守る決心
に至る。海上保安庁の救助艇（4 名乗り）魚釣島に近づくも荒波の為接岸できず
30m 沖で待機。
- 11:00 同行者 1 名が説得に応じ泳いで救助艇へ。私は 20 分後両足の傷口の血が固まるのを
確認した後（サメは 1 滴の血液でも 1 km 先から感知する能力がある為）救助艇まで泳ぎ
漁船に戻った後船上にて 10 分程海保係官の事情聴取を受ける。
- 11:45 現場海域を離れ一路石垣港へ
- 18:30 石垣港到着 港にて十数社の報道取材を受けた後出頭要請を受けホテルへ戻り準備
- 20:30 八重山警察署へ 3 名で出頭 事情聴取
- 22:00 八重山警察署 玄関出口にてマスコミ取材（5 分）

9月 19 日 (水)

- 9:20 八重山警察署出頭 事情聴取
- 12:00 昼食（船長親子同席）
- 13:00 八重山警察署出頭 事情聴取
玄関出口にてマスコミ取材（5 分）
- 16:10 石垣空港→那覇空港 (17:05 着) 石垣空港ロビーにてテレビ取材
- 17:45 那覇空港→鹿児島空港 (19:00 着) 鹿児島空港ロビーにてテレビ取材

9月 21 日 (金)

- 事務所にてロイター通信取材

12月 3 日 (月)

西郷隆盛墓参 知覧特攻平和記念館参拝

12月 5 日 (水)

山口県萩市 松陰神社参拝 吉田松陰 高杉晋作墓参

12月 6 日 (木)

10:00 鹿児島地検本庁出頭（八重山地検係官取り調べ）

12月 17 日 (月)

20:30 マスコミ報道により「不起訴」決定を知る

報道各社の取材 Q & A

帰港後ターミナルにて

Q・目的について

A・慰霊 領土主権の主張、日本人への警告

Q・上陸した際の気持ち

A・還暦を迎えた際に戦時犠牲者の慰霊を尖閣の地で実行できやっと日本人の仲間入りができた。

Q・警告を無視して上陸したことについて

A・最初から上陸を決めていたので確信犯でありあえて法の裁きを受けることは覚悟の上だった。

Q・石垣港に戻ってきた際の気持ち

A・私個人の目的は達成できたが この行動が日本国民が目を覚ます 起爆剤になって欲しい

Q・日中関係の現状の配慮は

A・国家間の問題は政府間交渉でやるべきであり、私のような一国民の行動が国家間の問題になると
は思ってない。

Q・今日は（9月 18 日）は満州事変の発端となった柳条湖事件の起きた日で 中国では抗日運動のシ
ンボル的な日ですが、あえてこの日を選んだ理由は？

A・柳条湖事件の日である事は知っていたが私にとって大切なことは 疎開船撃沈犠牲者の慰霊が最
大の理由。私自身も奄美大島出身者であり、疏開船には沖縄在住の奄美出身者も多く、中には大勢
の子供も含まれていたと聞きましたので 違法覚悟での上陸慰霊でした。

八重山警察署玄関出口にて（事情聴取終了後）

Q・中国は「愛國無罪」日本は「愛国有罪」について

A・日本は法治国家であることが確認できたので逆に嬉しい。中国は偏った愛国教育
「反日教育」により暴動に発展し、日系企業の店舗破壊や放火、略奪 日本製品の
不買運動、在中国日本人への嫌がらせ、日本国旗への冒涭等、悪の限りを尽くしましたが
殆どが事件として扱われず「愛國無罪」になりました。

しかし、私の上陸に関しては、「我が国の今日は先人たちの犠牲の上に成り立っている」
との愛国心からの行動でしたがきちんと裁きを受けることは日本がまさに法律が平等に
適用される素晴らしい法治国家である事が証明され、逆に日本人としての誇りを感じます
ただ政府の外交交渉の稚拙さにはあきれるばかりなので、我々国民一人一人が
日本人として国家意識を持つことの大切さを感じもらいたい。

日本人の心に潜む本当の敵は
幕末の志士「吉田松陰」が主導した尊王攘夷のようなスローガンは現代の我々にはない。
「打倒〇〇」と叫んでも我々には明確な敵はない。

共産党？日教組？資本家？官僚？韓国？北朝鮮？中国？ロシア？・・・・
どれも我々を一つに団結させる「敵」ではない。むしろ敵は日本人としての心の基盤が
壊れ、誇りと自信を失いグローバル資本主義の中で翻弄され、斜陽に向かう我々自身の
心の中にある事に気付くべきだ。最も金のかからない国防は眞の歴史教育であることを
再認識すべきであろう。

尊王攘夷運動とは

日本が欧米諸国の植民地にされてしまいそうだ、という危機的な時代にあって、その頃の人々に内政上と外交上のいわば：唯一の活路：を示した運動
内政上の活路が「尊王」で外交上の活路が「攘夷」であり、欧米列強との対等なかたち
での開国を目指した運動である。決して外国人に対する排斥運動ではない。

一尖閣問題の推移—

明治 4 年	廃藩置県により琉球王国が廃止にされ沖縄県が誕生
明治 18 年	政府が現地調査：無人島、清国の支配がないことを確認
明治 28 年	領有を閣議決定：清国から異議申し立てなし
戦前	鰯節工場があり約 200 人が居住
昭和 26 年	サンフランシスコ講和条約でも日本が放棄した領土に含まれていない (沖縄返還で施政権が復帰・中国も異議を唱えず) 中国共産党の機關紙「人民日報」の 昭和 28 年 1 月 28 日付けの記事には「琉球諸島には尖閣諸島・沖縄列島・大島諸島などが 含まれる」と明記
昭和 33 年	「中国の世界地図集」には尖閣諸島は日本の領土とある。
昭和 44 年	国連アジア極東経済委員会の海底資源調査結果（石油・天然ガス埋蔵）
昭和 46 年	突如として台湾と中国が尖閣諸島の領有権主張を始める
6 月	日米沖縄返還協定調印
昭和 50 年	中国の「武装漁船」集団が一時魚釣島を占拠、その後撤退（以後日本が実行支配）
昭和 53 年	100 隻以上の中国漁船が領海侵犯
平成 4 年	中国が領海法を制定して尖閣諸島を自国領として明記
平成 16 年	
3 月	中国の活動家 7 名 魚釣島上陸
平成 22 年	香港の活動家 7 名 魚釣島上陸
8 月	中国漁船が領海内で海保巡視艇に故意に衝突・逮捕した船長を処分保留のまま釈放

日本人よ目を覚ませ！！

「謙虚は美德」だが「諦めも美德」か

※失われた日本人の心の基盤

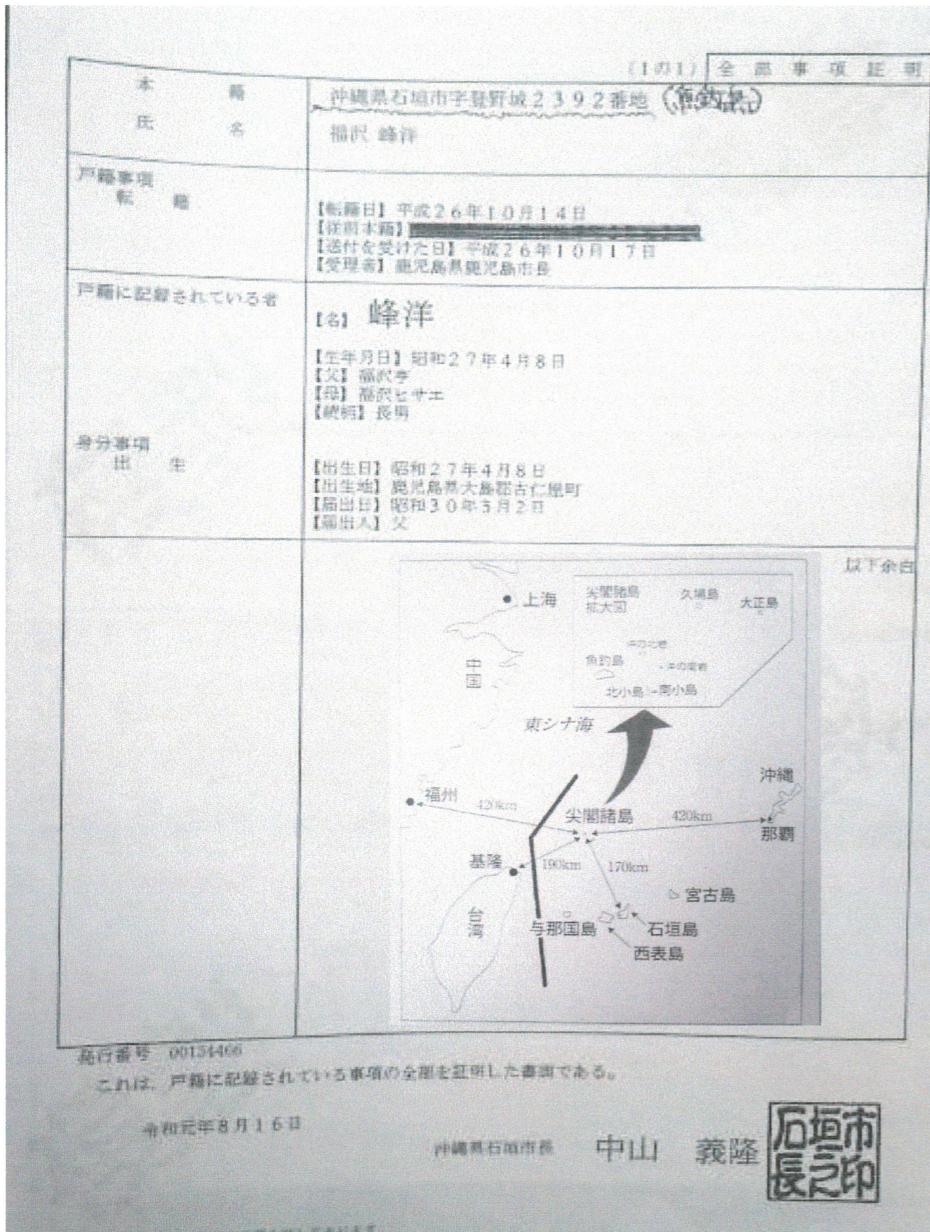
政治の腐敗と無気力、社会的責任と義務を忘れた官僚、度を越した拜金主義、教育
の荒廃とモラルの低下。その結果としての経済の混乱、治安の悪化、ニートや引きこもり
の増殖、自殺者年間 3 万人越え、いったい いつから日本はこんなに情けない国になってしまったのか。16 世紀日本を訪れた宣教師ザビエルは「他のどんな民族よりも礼儀正しく勤勉」と評し、大正末期、日本各地で公演をしたAIN シュタイン博士は「神が日本という尊い国を創っておいてくれたことに感謝する」との言葉を残しました。こうした賛辞の背景には古来以来、異民族の侵入侵略や干渉を排除し、統一国家としての歴史と文化を
守り続けた先人たちの知恵と勇気と努力、そして何よりも世界に負けまいとする気概があ
ったからこそと思います。これを「日本精神」と呼ぶならば「日本精神」の復興こそが、
いまの日本に求められているのではないでしょうか
日本人の心の基盤は「死者の目を意識して生きる」ことであり「先祖」を大切にしてきた
誇り高き民族である。しかし歴史を直視しない戦後教育により、正しい心の基盤が崩れ
ていく一方である。その象徴が国に殉じた戦没者の英靈さえ粗末にして恥じない昨今
の政治や社会、老若男女問わず今の日本には國のために命を捧げた人々の魂に対して
何の敬意も捧げない、ましてや私たちの国を守るために若くして散った忠靈を非難する
バカな人間もいるのは、心の中が日本人ではなくっているのではないか。世界一
の道義国家である我が国は先人たちの犠牲の上に成り立っていることをしっかりと心に
刻むべきである。

※歴史を直視し自虐史観からの脱却を目指せ

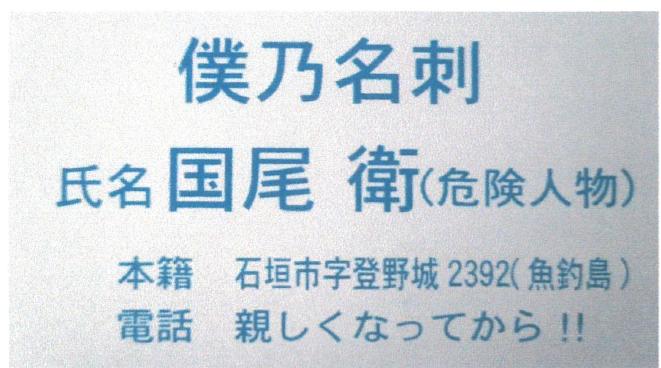
戦争は犯罪であり惡であるが大東亜戦争（第二次世界大戦）は本当に日本の侵略
戦争だったのか？答えは「NO」だ！
－タイのククリット・プラモード元首相の言葉－
「日本のおかげでアジア諸国はすべて独立できました。
日本というお母さんは難産のため母体を損ないましたが、生まれた子供たちは元気に
すくすく育っています。今日東南アジア諸国が米英と対等に話ができるのは一体誰の
おかげでしょうか。それは身を殺して仁をなした日本というお母さんがあったからです。
12 月 8 日（真珠湾攻撃）は私たちの“お母さん”が一身を賭して重大決心をされた日
なのです。だから私たちは決してこの日を忘れてはならない。そして 8 月 15 日（終戦）
は私たちの“お母さん”が病の床に伏した日もあり、この 2 つの日を絶対に忘れては
ならない」

平成26年10月14日

尖閣諸島魚釣島へ本籍地移転



転籍後の名刺 裏



生還月日 平成24年9月18日
性 格 小心者
好きな人 右を向いて生きる人
嫌いな人 左を向いて生きる人
好きな国 日 本
嫌いな国 害 国

—中国の海洋戦略—

昭和44年 国連アジア極東経済委員会が東シナ海の海底資源調査
石油や天然ガスの埋蔵の可能性が大

昭和46年 突如として尖閣諸島の領有権主張

昭和60年 中央軍事委員会が資源確保の為の戦略的整備を行う
「軍の中心的戦略任務は領土主権と海洋権益の擁護」「積極的防衛こそ国防政策の要」とし海洋軍事化を図る

平成4年 南シナ海の80%と尖閣諸島を中国国有の領土とする「領海法」を制定
この年に米軍がフィリピンのクラーク・スピードックから撤退

平成9年 「国防法」を定め、海洋権益維持のため、沿岸海軍から近海海軍へ本格化、つまり米軍に対する接近阻止戦略の構築

—中国海洋侵攻のシナリオ—

昭和49年 西沙諸島ヨンローを占拠
ベトナム・フィリピン・マレーシア等は血あがなう抵抗をする

平成9年以降 アンセン首脳会議に出席

平成12年 ベトナムと領海制定に関する署名

平成14年 アンセン首脳と複雑化する行動の自制
「南シナ海行動宣言」署名

平成15年 東南アジア友好協力条約に加盟

その後、抵抗の強い南シナ海から日米同盟のプレと現行憲法に縛られ、手も足も出せないくみし易しの我が國東シナ海を伺う。

協賛

薩摩志士の会設立10周年おめでとうございます。



未来の日本 子供たちのため



更なるご躍進をお祈りいたします。

株式会社ケービースポーツ

㊗ 薩摩志士の会設立10周年

塩津 和彦

奥山工務店株式会社

鹿児島県知事許可(般-29)第16297号

鹿児島県大島郡知名町

芦清良851

奥山 雅貴



協賛

システム開発・マイナンバー管理
WEB・ホームページ制作の事なら

株式会社ITブレード



Giken

株式会社 技建

〒895-0012

鹿児島県薩摩川内市平佐町1564番地

Tel.0996-25-2208



川越耳科学クリニック

めまい・耳鳴り・難聴センター

<http://jikagaku.jp>

診療科目

- ◆耳鼻咽喉科
- ◆小児耳鼻咽喉科
- ◆小児科
- ◆リハビリテーション科
(言語聴覚療法)



㊗ 薩摩志士の会設立10周年

友野 三夫

㊗ 薩摩志士の会設立10周年

関谷 隆

株式会社
指宿やさいの王国
安全な野菜を安定供給することを
モットーに野菜づくりに励んでいます。

<http://yasainooukoku.co.jp/>

㊗ 薩摩志士の会設立10周年

日新パッケージ株式会社

至福のひとときを貴男へ
飲んで歌って今宵も楽しく

ラウンジ鈴 RIN

飲み放題・歌い放題

㊗ 薩摩志士の会設立10周年

石川一郎

㊗ 薩摩志士の会設立10周年

福沢ヒサエ

発 起 人

佐藤 正久	宇都 隆史
宇都 宏武	保岡 慎吾
西村 宏	中田 中津川 ひろさと
鈴木 信行	竹原 信一
田母神 俊雄	デヴィ スカルノ
岡野 俊昭	諸橋 茂一
栗野 成人	奥 茂治
瀬戸 弘幸	松山 昭彦
山下 美里	六本 幸則
市来 徹夫	小名木 善行
高田 純	高田 英明
坂田 政典	井上 和夫
佐藤 智洋	川上 幸右基
中川 洋美	盛田

自由民主党 参議院議員
 自由民主党 参議院議員
 自由民主党鹿児島ふるさと創生支部長
 元衆議院議員
 前横浜市長 元衆議院議員
 元衆議院議員 日本維新の会16区支部長
 東京都葛飾区議会議員
 元阿久根市長 現阿久根市議会議員
 第29代航空幕僚長
 初代インドネシア大統領夫人
 元銚子市長・新しい歴史教科書をつくる会副会長
 KBM代表取締役会長
 牛喘俱楽部 代表
 南西諸島安全保障研究所 所長
 日本第一党 最高顧問
 保守の会 会長
 保守の会 大阪支部
 日本高志会 代表
 鹿児島県郷友会 会長
 国史啓蒙家
 札幌医科大学教授 理学博士
 埼玉医科大学客員教授
 九州歴史観光戦略研究所 代表
 英霊の名誉を守り顕彰する会 会長
 神輿JAPAN 代表理事
 神輿JAPAN 顧問
 鹿児島県水泳連盟理事・ヨシミ産業 代表

協 賛

◎薩摩志士の会設立10周年 株式会社 勇建設	◎薩摩志士の会設立10周年 からだ治療院 大倉野忠幸
うさぎ屋の四方山話 http://kedogawajun.blog.fc2.com/	◎薩摩志士の会設立10周年 呉勲變
◎薩摩志士の会設立10周年 関谷 隆	◎薩摩志士の会設立10周年 幾村 清徳
◎薩摩志士の会設立10周年 満村 昭一郎	◎薩摩志士の会設立10周年 上田 勇作
◎薩摩志士の会設立10周年 薩摩志士の会奄美支部一同	◎薩摩志士の会設立10周年 薩摩志士の会婦人部一同
◎薩摩志士の会設立10周年 磯端 強志	◎薩摩志士の会設立10周年 薩摩志士の会 青年部一同

この度は弊会主催の薩摩志士の会設立10周年イベントにご協賛いただき、誠にありがとうございます

私どもの活動にご理解ご協力いただいたご厚意にスタッフ一同、深く感謝いたしております。

貴社はじめ多くの方々のご期待に沿えるようイベントを成功に導き、薩摩志士の会の発展に向けて

邁進いたします所存でございます。

今後とも、どうか末永いお力添えを頂きますよう 宜しくお願い申し上げます。



利の爲に諂らず
名の爲に設けず
至誠に發して然る也